

## <保育目標>

### ともに生き、ともに育ちあう保育の実践 《強く 明るく 仲良く 伸びる》

- ◎仏様に親しみ、命の尊さと生きる喜びを感じ共に生き共に育ち合う
- ◎身近な自然や社会の恵みに感謝し、明るく元気な子
- ◎みんなと仲良く励ましあい健康な心と体をはぐくむ

## <保育理念>

- ◆豊かな宗教的情操教育の中で、心身の調和的な発達を図り、一人ひとりの乳幼児が幸せな生活が出来る礎を築く
- ◆恵まれた自然環境を十分にいかした中で、個性・能力・異文化をこえ、生活を共にし、違いを認め合いながら共感を交わし、支え合い、間柄を大切に生きる力を事を養う
- ◆子供らしいゆったりとした「時間」を持ち、遊びが展開できる「空間」と遊び「仲間」を大切に、大人（保護者・保育者・地域社会）の愛護の中で安心して遊び、友達関係を作る
- ◆自然豊かな環境の中で、豊かな感情を養い、運動遊びを通してルールを守り丈夫な体をつくりながら、自信と積極性、創造力を養い、豊かな発達に援助するよう努める
- ◆人やものとの関わりを通して「個」を確立する

## <保育を具体化するために>

- ◇一人ひとりにあわせた育児支援（0・1・2歳児）  
一人ひとりの生活リズムを大切にしながら、安心出来る環境の中で、食事・排泄・衣服の着脱等の基本的な生活習慣を身につける為に、ゆるやかな担当制をとる。  
一人ひとりに深く関わる事で情緒の安定を図り、個々の成長を丁寧に見ていく。また丁寧に関わりながら、少しずつできることが増えていくよう働きかける。
- ◇5領域（健康・人間関係・環境・言葉・表現）に基づいた保育（3・4・5歳児）  
幼児期の発達に添って身につけておきたい基礎能力をつけていく活動を、年齢的にカリキュラムを作成し実施する。（音楽・体育・造形・文学・環境など）  
また毎日の遊びを通して友達との関係作りを育み、自分で考え責任を持って行動する自立感や、自分で自分をコントロールする自律感を身につけられるように保育環境を整え自尊感情を育てていく。